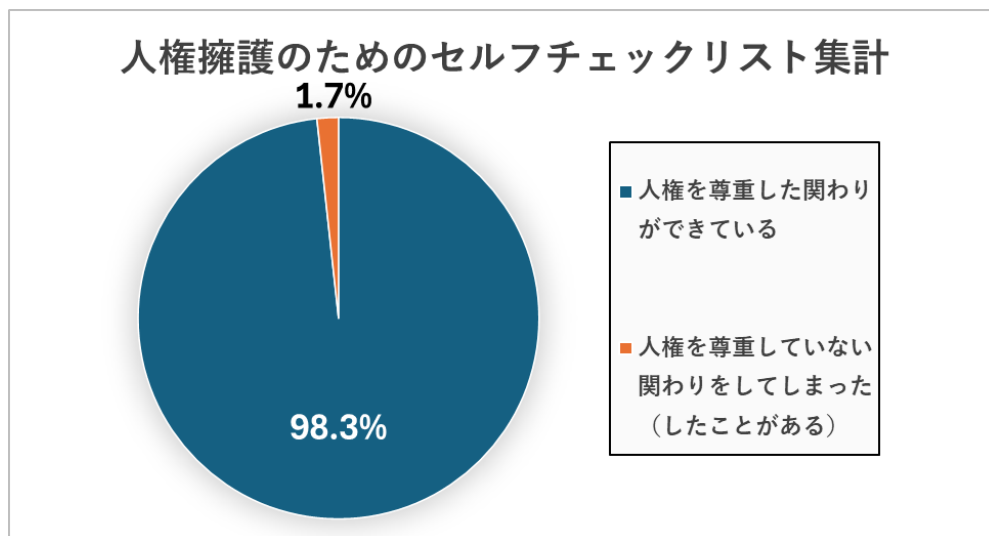


**北保育所** 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和7年6月実施）  
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト  
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して98.3%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.7%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、「〇〇しないなら〇〇できないね。」を「〇〇してから〇〇しようね。」という言葉がけにしています。大人が主体となる言葉がけではなく、子どもが選択できるような言葉がけをしていくことを確認しました。伝え方を変えることで、子どもに寄り添う言葉に変わり、子どもの主体性を育めるようにしていきます。

寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。

上記の項目につきましては、眠れない子もいるので、個々に合わせて対応しており、外で寝るように言うなどの対応はしていません。睡眠の保障も大切に考えており、落ち着いて入眠できる環境設定のほか、保育者がそばにつき、安心して入眠できるよう配慮しています。個々の配慮点も異なるため、保育者が情報を共有し、環境を整えています。

少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

上記の項目につきましては、みんなが同じ量ではなく、自分で量が決められるようなやり取りが大切だと職員間で確認しました。また、好みや食べられる量を把握し、子どもと相談しながら個々に合わせた量を配膳することを確認しました。子ども一人ひとりが安心して思いを表出できるような環境を整えていきます。